

# 長野市都市計画マスタープラン 改定の主な視点

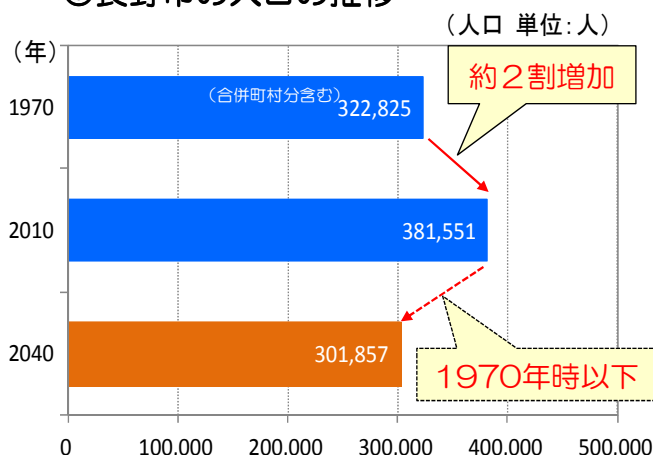
平成27年7月1日(水)  
都市整備部都市計画課

## 長野市の現状と課題

### 現状と課題

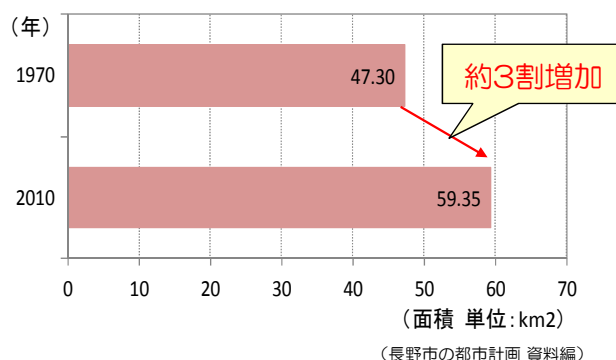
- 長野市では、
  - ・急速な人口減少と高齢化に直面し、地域の産業の停滞もあり活力が低下
  - ・住宅や店舗等の郊外立地が進み、市街地が拡散し、低密度な市街地を形成
  - ・厳しい財政状況下で、拡散した居住者の生活を支えるサービスの提供が将来困難になりかねない状況にある。
- こうした状況下で、今後も都市を持続可能なものとしていくためには、都市の部分的な問題への対症療法では間に合わず、都市全体の観点からの取り組みを強力に推進する必要。

### ◎長野市の人口の推移



(国勢調査, 社会保障・人口問題研究所)

### ◎長野市の市街化区域面積の推移

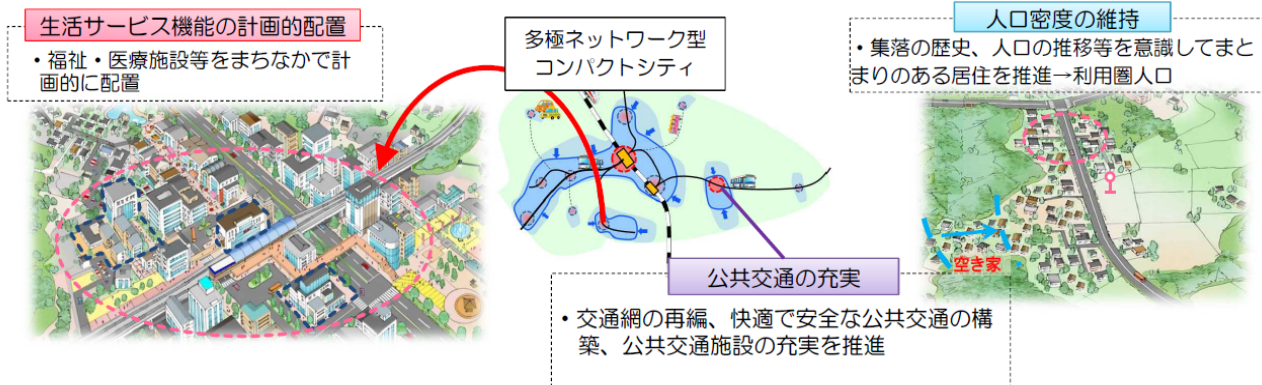


(長野市の都市計画 資料編)

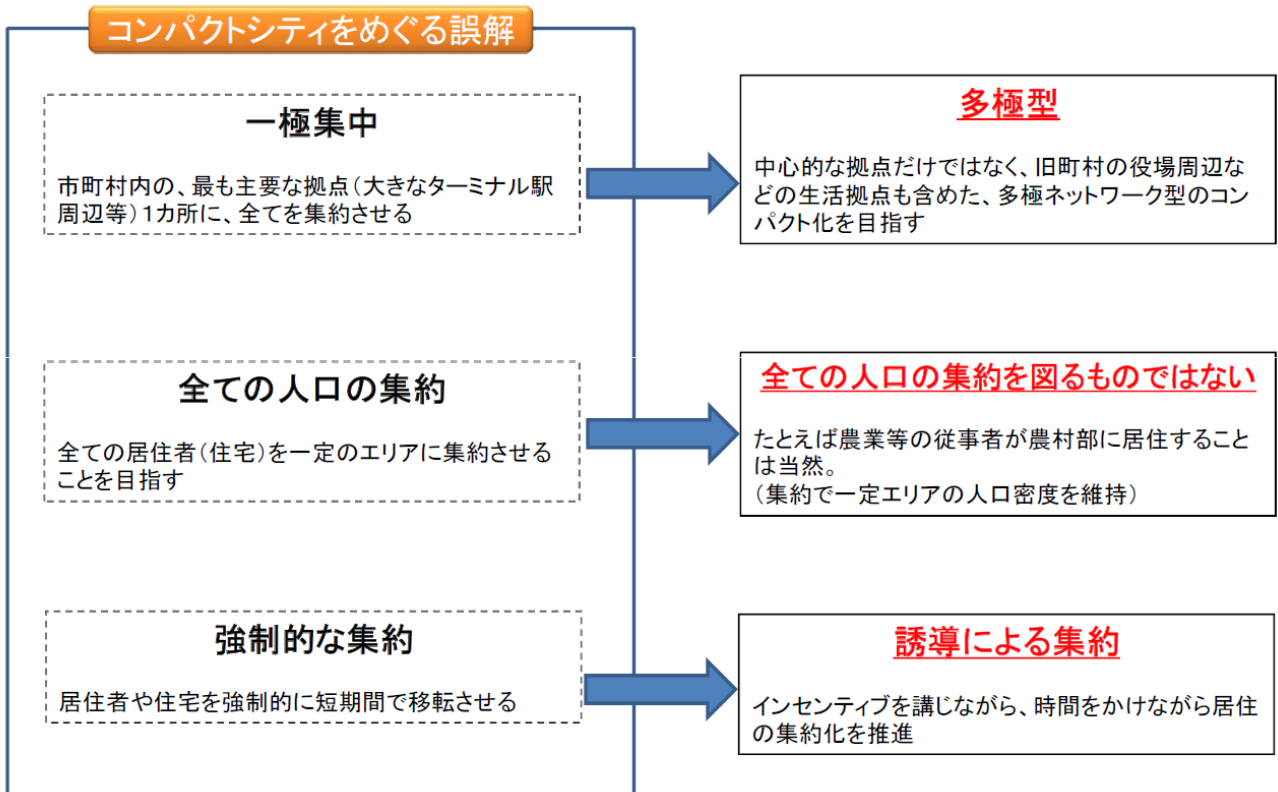
## 多極ネットワーク型コンパクトシティ

- 医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、あるいは、
- 高齢者をはじめとする住民が自家用車に過度に頼ることなく公共交通により医療・福祉施設や商業施設等にアクセスできるなど、
- 日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいなどの身近に存在する

「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を目指す。

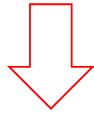


## 多極ネットワーク型コンパクトシティ



## ○都市計画マスタープランの内容

- ① まちづくりの方針
  - どのようなまちづくりを目指すのか
- ② 目指すべき都市の骨格構造と誘導方針の検討
  - どこを都市の骨格にするのか
  - どこにどのような機能を誘導するのか



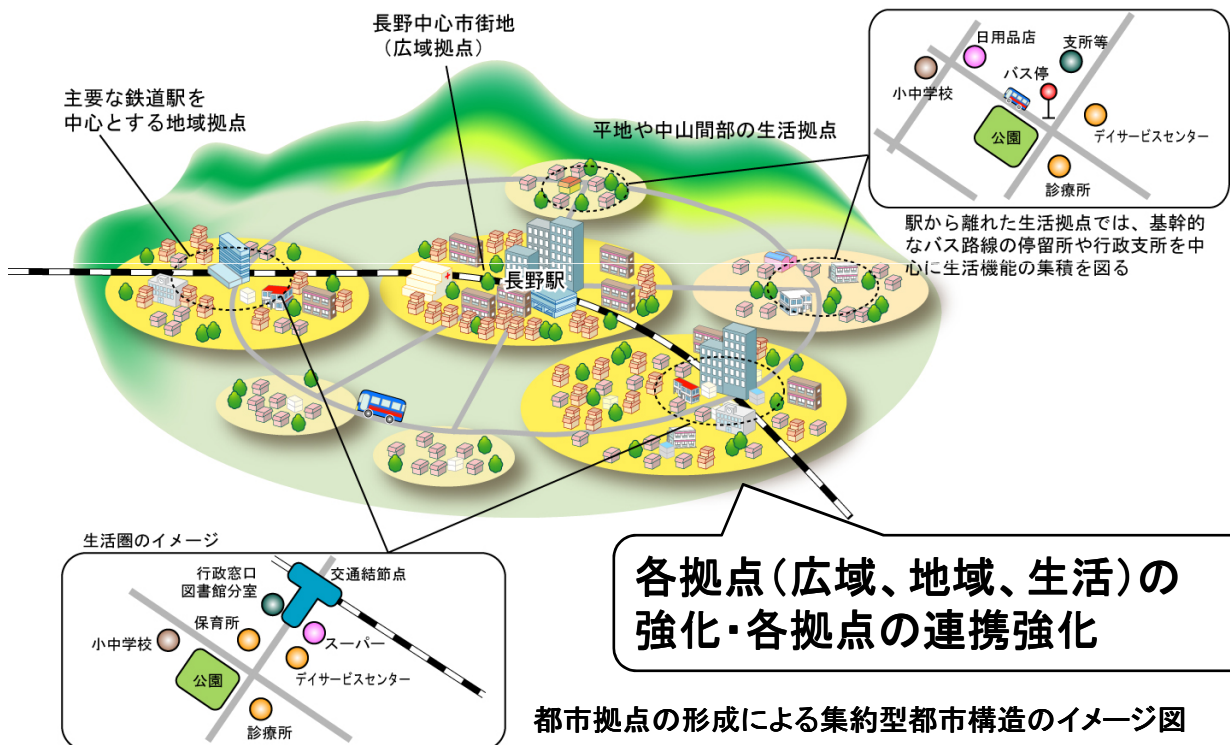
都市の現状と将来を展望し  
市民生活や経済活動を支える上でどのような課題があるか  
20年後にも持続可能な都市としてどのような姿を目指すのか  
分析、検討する

## 現行の都市構造の基本方針

### 都市構造の 基本方針

#### ●コンパクトな都市(集約型都市構造)の形成

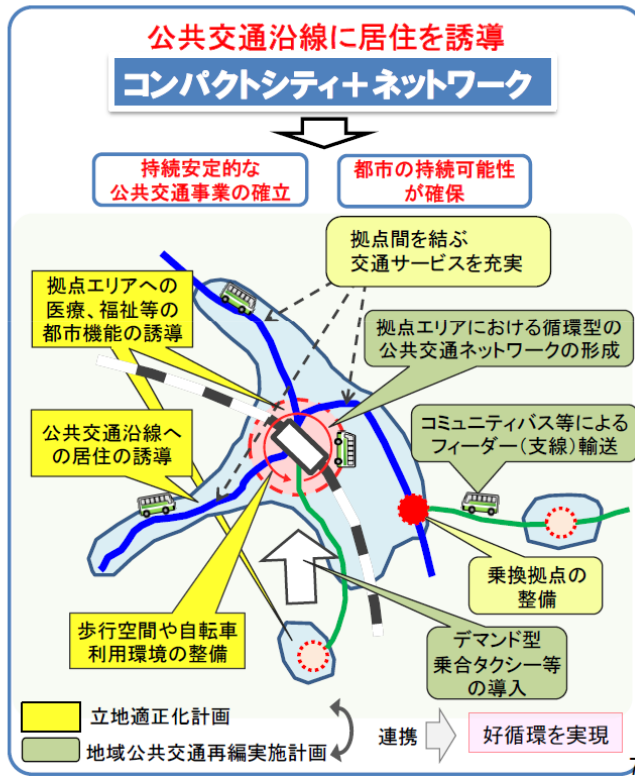
- ・地域コミュニティや日常生活の中心となる「都市拠点」の形成
- ・「都市拠点」をつなぐ「都市軸」の形成



# 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現化 <sup>7</sup>

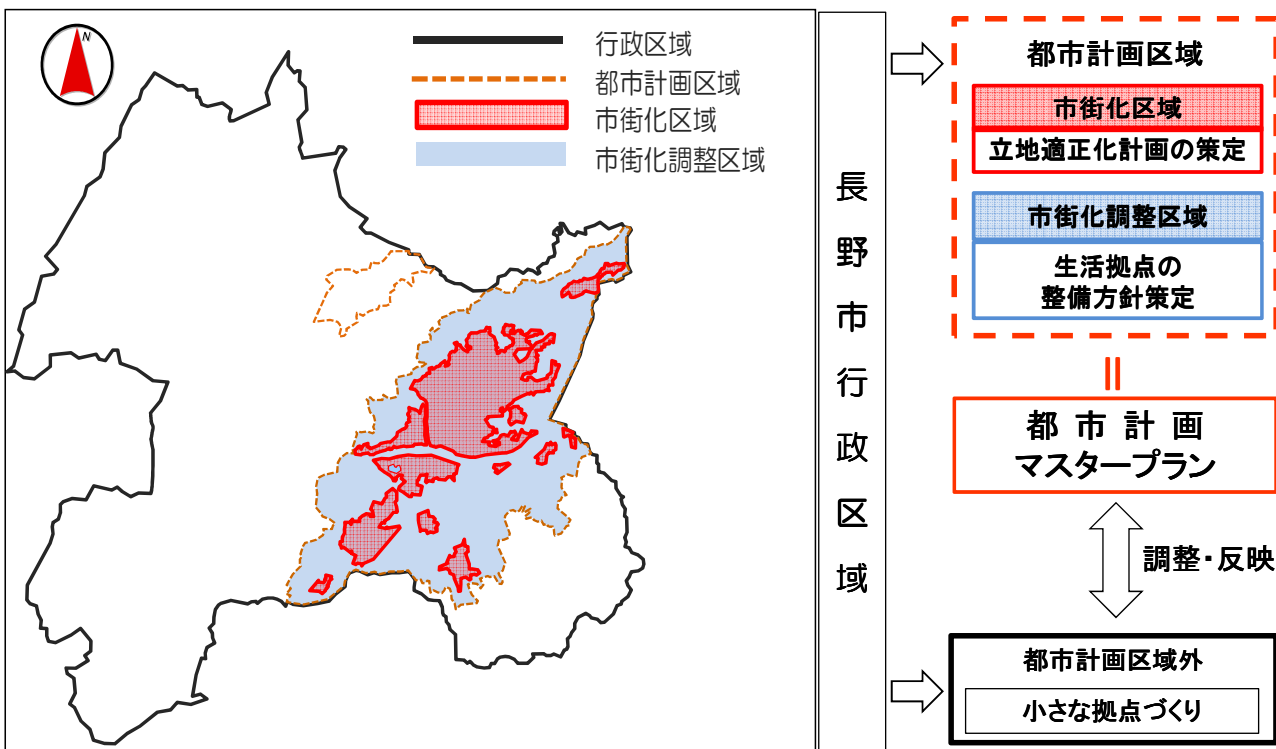
現状: 地域の大切な公共交通の維持・確保が厳しい状況

これからの姿: 利便性の高い公共交通で結ばれたコンパクトなまち



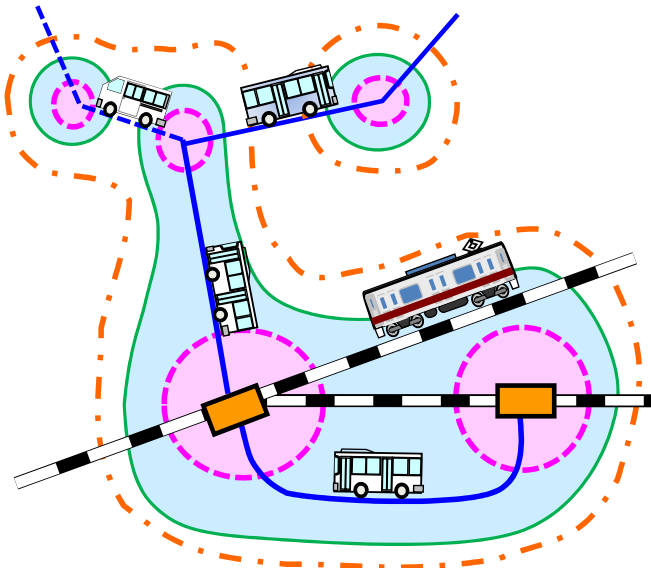
## 立地適正化計画の区域

8



# 立地適正化計画の策定

立地適正化計画⇒「目指すべき都市の骨格構造」と「誘導方針」



- 市街化区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

## 策定のための3つの柱

- 都市機能誘導区域【必須事項】  
中心的拠点や生活拠点に医療・福祉・商業等を誘導集約し、これら各種サービスの効率的な提供を図る区域
- 居住誘導区域【必須事項】  
一定エリアにおいて人口密度を維持し、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう居住を誘導する区域
- 公共交通計画  
公共交通を軸とした街づくり

# 関連計画との調整・連携

## ◎公共施設マネジメントとの連携

公共施設 マネジメント のポイント	人口減少・少子高齢化社会における、公共施設の「量」と「質」を見直す
-------------------------	-----------------------------------

## ◎公共交通との連携

公共交通 ビジョン のポイント	地方公共団体が中心となり、 <b>まちづくりと連携</b> し、 <b>面的な公共交通ネットワーク</b> を再構築
-----------------------	--

